

尿路結石を伴う原発性閉塞性非逆流性巨大尿管に対して

内視鏡・気膀胱下手術を行い治癒し得た1例

Transvesicoscopic ureteral reimplantation and ureteroscopy for management of primary obstructed non-refluxing megaureter with ureteral calculus

加藤 大貴（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 泌尿器科）

この度は、大変栄誉ある優秀論文賞を頂きまして、誠にありがとうございます。その内容を紹介させていただきます。

本症例は、尿路結石を伴う原発性閉塞性非逆流性巨大尿管 (PONM) の6歳女児です。いかに低侵襲に患児を治療するか、術前に discussion を行いました。逆流防止術を気膀胱手術で行い、術中に軟性尿管鏡を用いて尿路結石を同時に摘出できるのではないかと発想しました。その strategy は、気膀胱下に尿管口をくりぬき、narrow segment を切除するとその頭側の尿管は拡張している。軟性鏡を経尿道的に挿入し、気膀胱手術の術者が鉗子を用いて尿管鏡の挿入を補助して尿管口へ挿入できれば、結石に到達できる、というものでした。実際の手術では、想定どおりに尿管鏡を腎盂まで到達させることができ、バスケットで結石を摘出することができました。その後、尿管形成・尿管膀胱新吻合を行いました。手術時間は4時間42分、合併症なく術後5日目に退院しました。術後13か月のUSで尿路結石の再発はなく、水腎水尿管は改善を保っています。本術式は、逆流防止術と結石手術を同時に行うことができる有用な手術術式になりうると考え、Int J Urol Case Reports に報告いたしました。

本症例を通じて、個々の患者さんにあった strategy をもって、低侵襲かつ安全に治療や手術を提供できるよう、1例ずつ向き合うことが重要であると再認識いたしました。

最後にこの場をお借りして、名古屋市立大学小児泌尿器科学講座の林祐太郎教授、水野健太郎先生、西尾英紀先生をはじめ、腎・泌尿器科学講座の先生方に心より感謝申し上げます。